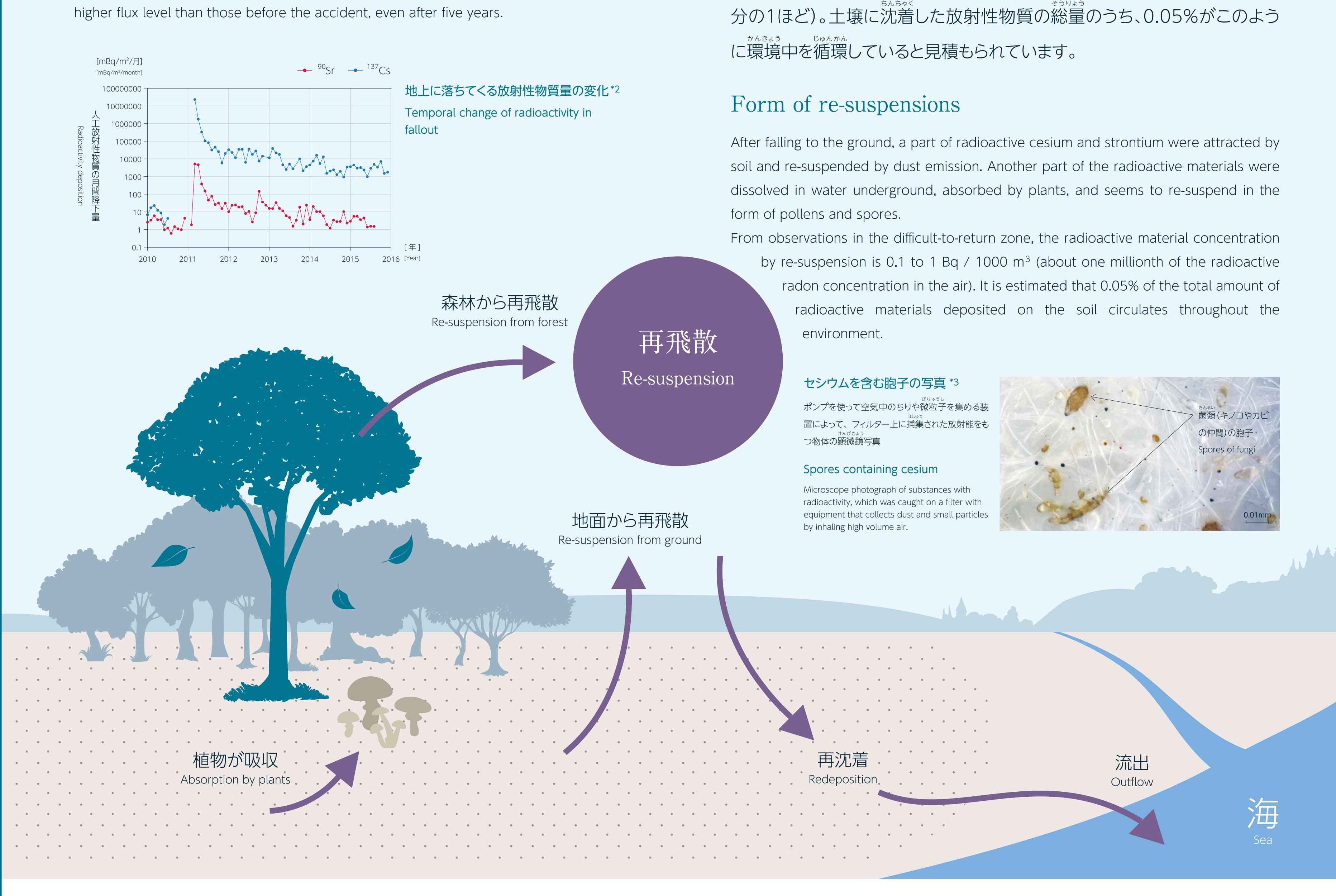
消えない大気中セシウム

地上へ降ってくる放射性物質の量は、原発事故後1年以内に急速に減少しました。しかしながら、事故後5年を経てもなお、事故前より多い量のセシウム (137Cs) やストロンチウム(90Sr) が降り続いていることが観測されています。

Cesium remaining in the atmosphere

The amount of radioactive materials falling to the ground rapidly declined within a year. However, radioactive cesium (¹³⁷Cs) and strontium (⁹⁰Sr) continue to be observed with a higher flux level than those before the accident, even after five years.



再飛散の形態

現在も大気中に見られるセシウムやストロンチウムは、いったん地面に降っ

たものが、土埃とともに再び舞い上がったり(土壌ダスト)、水に溶けて植物

に吸収され花粉や胞子とともに大気中へ放出されたり(バイオエアロゾル)

帰還困難区域内での観測から、これら再浮遊による放射性物質濃度は、

1000m³に0.1~1ベクレル(空気中の放射性ラドン濃度*5のおよそ100万

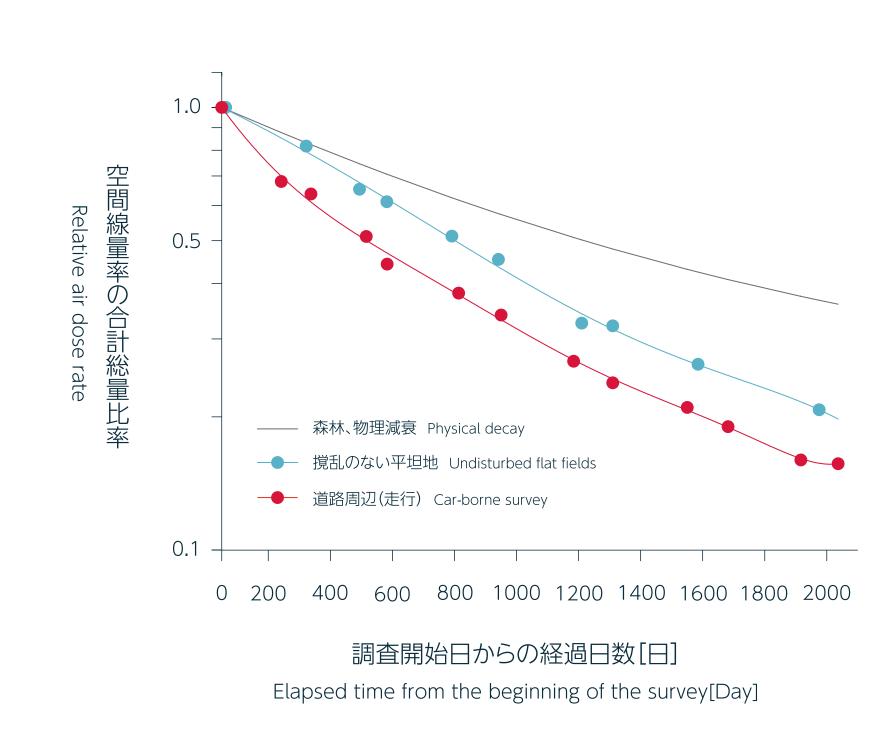
して、エアロゾルとして漂っていると推察されています*4。

地面に降った放射性物質のその後

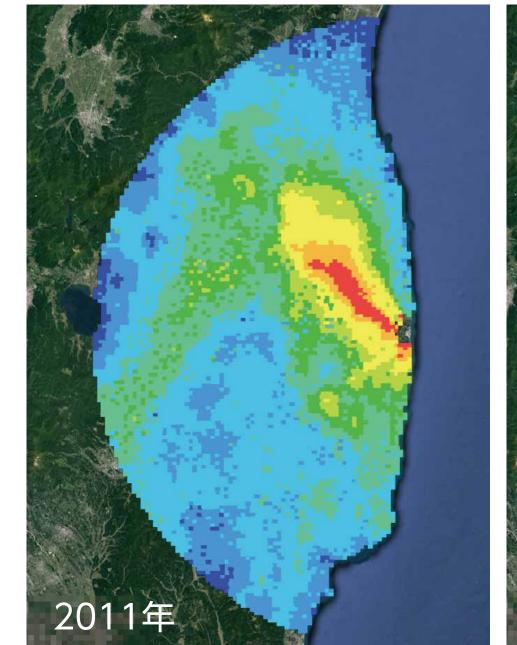
現在も地上に残る放射性物質の主なものは、半減期が30年の放射性セシウム(137Cs)です。土壌に強く吸着していて大部分は動きませんが、物理崩壊に加えて、除染による効果、そして雨水によって川や海へ流される効果によって、徐々に汚染度は下がっています。

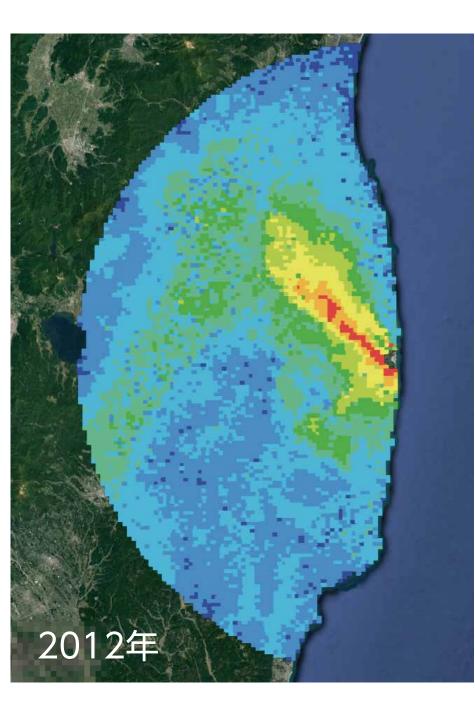
Status of radioactive materials after falling to the ground

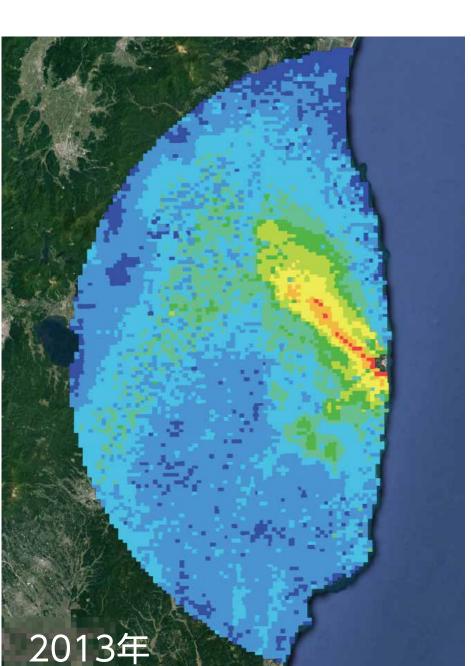
A main radioactive component remaining in the ground is cesium (¹³⁷Cs), having a half-life of 30 years. They are strongly attached to soil and most do not move. But the radiation level is gradually reducing by physical decay, decontamination, and removal by rainwater flows to rivers and the ocean.

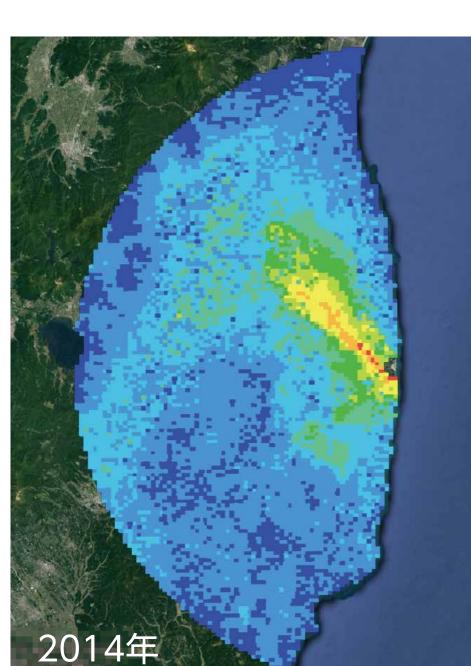


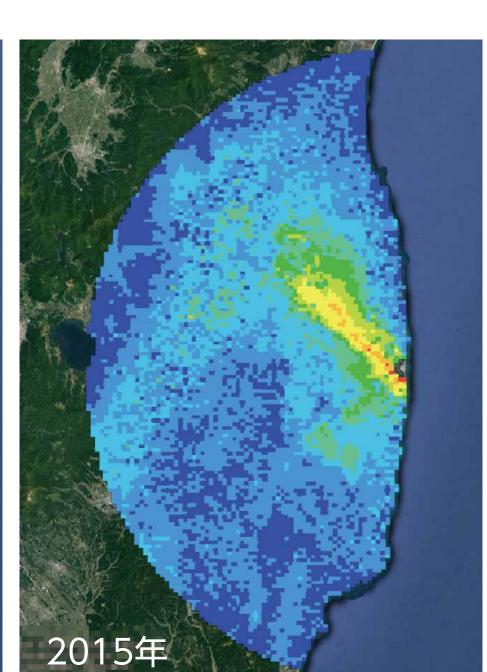
空間線量率の減少の様子 *1
Temporal change of the air dose rate





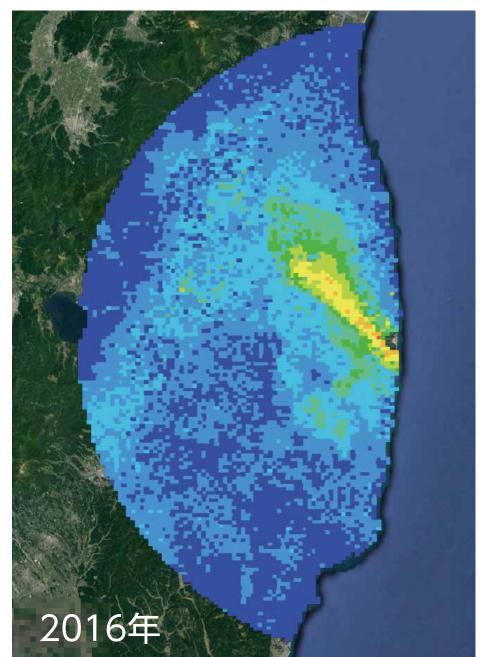






土壤汚染

Soil contamination



80km圏内における地表1m の空間線量率の変化*1

Air dose rate at 1 m above the ground within 80km area

地表面から1mの高さの空間線量率(µSv/h)
Air dose rates at the height of 1m above the ground surface

19.0 <
9.5 - 19.0
3.8 - 9.5
1.9 - 3.8
1.0 - 1.9
0.5 - 1.0
0.2 - 0.5

0.1 - 0.2

<u> < 0.1</u>